

周知に向けた取り組み・勉強会

ナッジまるわかり！

○△□教室
まるさんかくしかく



各分野の専門家・実践者を招き政策デザインや行動経済学など、最新の政策立案手法について学ぶセミナーを今年1月に開催。福井市との初共催の企画で、WEBを含めて190の方に参加いただきました。○＝「行動経済学」、△＝「デザイン」、□＝「EBPM」の3つの視点を軸に、国内外の政策デザイン事例が紹介され、「共創」と「プロトタイプ」の重要性を共有できました。

SNSデフォルト時代の活用術

情報発信に関する相談も多い政策デザイン。これまでのワークショップでもSNSに関する話題が多かったことを受け、勉強会を開催しました。講師はSNSを活用した情報発信などの業務を多数担っている高山友樹氏。SNSを使う際は「各媒体の特長を理解し、どのような情報を誰にどう届けたいかに合わせてツールを選ぶことが大切」といった活用のポイントを解説いただきました。



ふくい政策デザイン navi

「行政マンが抱える悩みをデザイン思考で解決に導く」。

そんな「政策デザイン」という手法が、庁内のさまざまな部署で成果を上げています。

「ふくい政策デザインnavi」ではその活用事例や最新のトピックス、導入の効果や活動の広がりなどをお伝えしていきます。



業務に活かしてみませんか？ 政策デザインを動画で紹介中！



入門篇

全庁をあげての政策デザイン推進に向け、職員（特に管理職）向けの普及啓発動画を紹介しています。入門篇（約2分）では政策デザインとは何かを簡潔に紹介。実績篇（約12分）では障がい者の幸せ就労を目指す「フクシヨン！」の事例をデザイナーが分かりやすく解説しています。「政策デザインって何？」と思った方はぜひ入門編からご覧ください。

ふくい政策デザインnavi
発行元：福井県未来創造部未来戦略課
0776(20)0759
発行月：2024年6月

デザイン思考で 課題を捉える ワークショップ

事業担当課とクリエイターが協働する「政策デザインワークショップ」。政策課題を抱える行政マンとクリエイターとで意見交換やアイデア出しを行う形式で実施しています。担当課からは意思決定できる責任者を含む数名が参加。円滑に議論できるよう、未来戦略課の職員がファシリテーションを行います。
2023年度もワークショップから数々の事業が生まれました。2024年度も随時テーマを募集中！課題解決にお悩みの方や課題の見直しを考えている方は是非、ご活用ください。

アウト プット 事例

政策デザインから
生まれた事例を
ご紹介します。

テーマ：民間事業者による障がい者への「合理的配慮の提供」義務化に関する周知
対象：民間事業者
担当：障がい福祉課

障がい者への差別解消に向け、 “できることから始める”「できルール」

障がいのある方への全方位的な配慮の観点を持ちつつ、民間事業者の具体的な行動につなげるにはどのようにメッセージを発信したらいいか。法改正施行前の約3か月にわたりワークショップを開催し、クリエイターと何度も議論を交わしました。障がいのある方や関係機関へのヒアリングも並行して実施し、会社やお店で“できることから第一歩を始めていく”ルールとして、「できルール」というコンセプトを固めました。本質に立ち返ってアイデアを協創し、試行しながら改善を重ねるデザイン思考をまさに実践！今後の展開にもご期待ください。



CASE
01

テーマ：新幹線効果の最大化・持続化に向けた
プレイヤーや投資等の拡大
対象：県内外で活躍するプレイヤー
担当：新幹線政策連携室

「チャレンジするなら福井」の 実現に向けて

北陸新幹線福井・敦賀開業の効果最大化・持続化するため、首都圏をはじめとした県外のプレイヤーに対し、福井の効果的な売り込み方や、県内外での情報発信に効果的な媒体・発信方法などについて意見交換しました。「どのようにアプローチされたら投資したくなるか」「プレイヤーとして福井でチャレンジしたいと思うか」など、“相手方”の目線に立ち、ディスカッション。さまざまな立場のプレイヤーが活躍の場を広げるための取り組みや各種支援の見える化など多彩なアイデアが出され、活発な議論が交わされました。



CASE
02

テーマ：児童の運動時間確保のための方策
対象：児童
担当：保健体育課

“はぴりゅうスポーツ 広場”で、小学生が 自主的に楽しく運動



↑「はぴりゅうスポーツ広場」HP



小学生の運動時間を確保するため、いかに自主的に運動に取り組んでもらえるようになるか。この課題を解決するため、デザイナーと意見交換を行いました。初めは県内での順位を争うランキングコースのみの想定をしていましたが、「家族と一緒に楽しめるコースを設定してはどうか」「児童が楽しむ仕掛けを取り入れてみてはどうか」「児童が親しみやすいような愛称があるといいのでは」とのアドバイスを活かし、ユーザー（子ども）目線でサイトを構築。今年4月から県内の小学校で導入が始まっています。

CASE
03

テーマ：ふくい NEW 経済ビジョンの普及啓発
対象：経営者や従業員
担当：産業労働部政策推進グループ

コラボ動画で発信！ 「ふくいNEW経済ビジョン」

多くの経営者や従業員に「ふくいNEW経済ビジョン」に関心を持ってもらい、行動変容まで促したいとの思いからワークショップを開催。「ワークショップで出た身近な企業の取り組みを紹介してはどうか」「ユニークに紹介する表現を入れては」とのアドバイスを活かし、県産業労働部長と福井商工会議所会頭のコラボ企画（両者による対談形式でのビジョン紹介）や企業によるDX化の先進事例を紹介する動画を作成、公開しています。



↑ ふくいNEW経済ビジョン 概要篇



CASE
04

テーマ：消費喚起策を伝えるメッセージ
対象：県民
担当：商業・市場開拓課

消費喚起に 「はぴコイン」を 活用！



能登半島地震の影響を受け、県民の買い控えの動きがみられたことから、消費喚起のため「はぴコイン」を活用した事業を行うことに。愛称を考える際に大切にすべきポイントや作成までのプロセス、デザインコンセプトなどについて意見交換しました。アイデアをもとにネーミングコンセプトを検討。「ふく+（県民の生活を助けるとともに、はぴコインで買い足すことにつなげる）」に決定しました。

CASE
05